

令和6年度お台場海浜公園噴水施設の経済波及効果推計について（概要）

東京都が実施するお台場海浜公園における噴水事業について、以下の新たに発生する需要による経済波及効果を推計した。

① 噴水施設の整備費

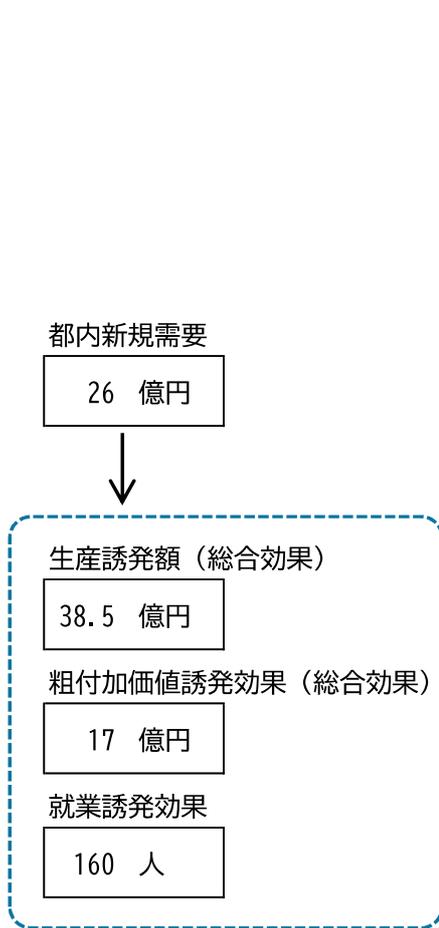
（噴水本体整備費、関連工事費、実施設計など）

② 噴水による来訪者の消費 [推計期間：2026年4月～2027年3月]

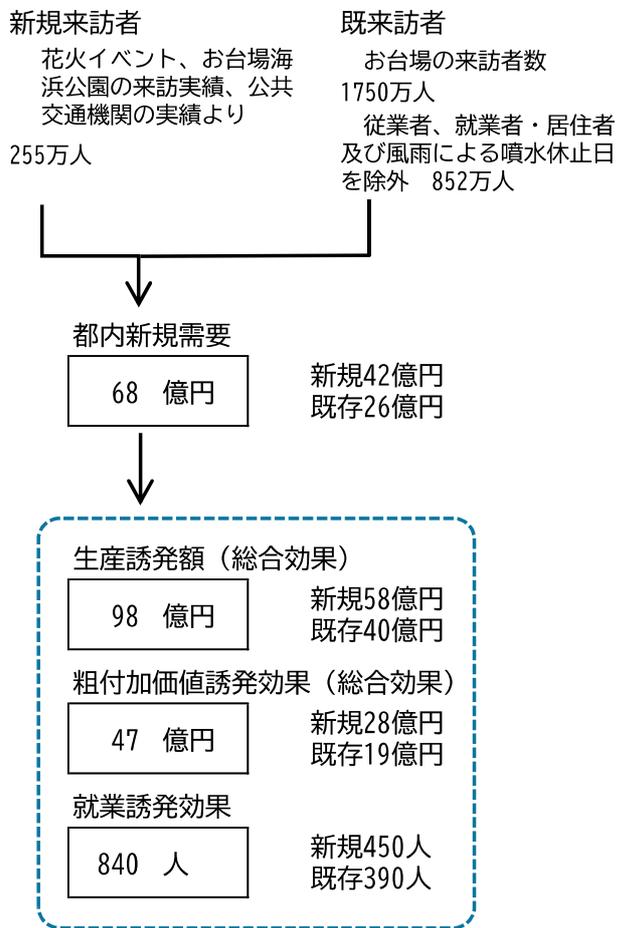
（噴水を目的とした新規来訪者の増加及び既来訪者の滞在時間増加による消費）

推計にあたっては、「東京都産業連関表経済波及効果推計ツール（東京都総務局統計部）」を用いて行い、結果は以下のとおりとなる。

① 噴水施設の整備費



② 噴水による来訪者の消費



（参考）RESASによる噴水観覧者数の推計
地域経済分析システム（RESAS）の「流動人口メッシュ」による年間の噴水観覧者数を推計値
約3,000 万人

令和6年度お台場海浜公園噴水施設の経済波及効果推計について

1. 経済波及効果推計結果総括

東京都が実施するお台場海浜公園における噴水事業について、以下の新たに発生する需要による経済波及効果を推計した。

- ① 噴水施設の整備費（噴水本体整備費、関連工事費、実施設計など）
- ② 噴水観覧を目的とした来訪者の消費（以下、「新規来訪者消費」という）
- ③ 噴水観覧可能エリアへの来訪者の噴水観覧により増加する消費（以下、「既来訪者消費」という）

来訪者消費（②、③）の推計期間は、噴水ショー開始予定の令和8年度（2026年4月～2027年3月）とし、推計にあたっては、「東京都産業連関表経済波及効果推計ツール（東京都総務局統計部）」を用いて行った。

(百万円)				
	計	整備費	新規来訪者消費	既来訪者消費
都内新規需要	9,534	2,640	4,209	2,685
直接効果	9,019	2,537	3,798	2,685
第1次間接効果	3,387	897	1,502	989
第2次間接効果	1,295	414	523	358
生産誘発額（総合効果）	13,702	3,848	5,822	4,032
粗付加価値誘発効果（総合効果）	6,579	1,771	2,841	1,966
(人)				
	計	整備費	新規来訪者消費	来訪者消費
就業誘発効果	1,019	169	457	393

2. 整備費による経済波及効果の推計

お台場海浜公園における噴水の整備費である噴水本体整備、関連工事費、実施設計費などを東京都産業連関表の産業部門の新規需要（購入者価格）として計上することにより、噴水整備費による経済波及効果の推計を行った。

産業部門別の新規需要（購入者価格）および経済波及効果推計結果は以下の通り。

（産業部門別 新規需要）

部門	金額（百万円）
33 電気機械	130
41 建設	2,430
64 医療・福祉	15
66 対事業所サービス	60
67 対個人サービス	5
計	2,640

(整備費による経済波及効果推計結果)

(百万円)	
都内新規需要	2,640
直接効果	2,537
第1次間接効果	897
第2次間接効果	414
生産誘発額(総合効果)	3,848
粗付加価値誘発効果(総合効果)	1,771
(人)	
就業誘発効果	169

3. 新規来訪者消費による経済波及効果の推計

(1) 新規来訪者数の推計

新規来訪者消費による経済波及効果の推計にあたり、2023年12月実施の花火イベントの実施日の来訪者の増加数をもとに2026年4月～2027年3月までの噴水観覧のために来訪する人数を推計した。推計は、以下の手順で行った。

- ① 花火イベントの実施日の来訪者数の増加数をゆりかもめ・りんかい線の降車人員、バスの輸送人員などから推計。その数を12月の天気の良い休日1日の噴水観覧目的の新規来訪者数とする。
- ② 東京都観光客数等実態調査(2023年)における台場地区の公園と施設の来訪者数比率により、①の値を按分し、噴水観覧目的の公園への新規来訪者数(②a)、噴水観覧目的の施設への新規来訪者数(②b)とする。
- ③ 2019年度、2022年度、2023年度(以下、「3カ年度」という)のお台場海浜公園への月別来園者数より、12月来園者数に対する各月来園者数の比率を算出。(2020年度及び2021年度は東京2020大会の開催地となっていたため除外。)
- ④ 3カ年度のお台場海浜公園への月別・天候別・平日休日別の来園者数より、月ごとの天気の良い休日の来園者数に対する、天気の良い平日、天気の良い平日、天気の良い平日の来園者数の比率を算出(④a)。また、3カ年度のお台場海浜公園への月別・平日休日別の来園者数より、月ごとの休日の来園者数に対する平日の来園者数の比率を算出(④b)。
- ⑤ 3カ年度の天候及び休日平日の日数より、天気の良い休日、天気の良い平日、天気の良い平日、天気の良い平日の月ごとの3カ年度平均の日数を算出(⑤a)。また、月ごとの3カ年度平均の平日・休日日数を算出(⑤b)。
- ⑥ ②aに③、④a、⑤aを乗じることにより、月ごとの天気の良い休日、天気の良い平日、天気の良い平日、天気の良い平日別の公園への新規来訪者数を算出(⑥a)。②bに③、④b、⑤bを乗じることにより、月ごとの休日・平日別の施設への新規来訪者数を算出(⑥b)。
- ⑦ ⑥aより、月および休日・平日ごとの天気の良い日と天気の良い日の来訪者数の比率を算出。
- ⑧ ⑥bに⑦を乗じることにより、月ごとの天気の良い休日、天気の良い平日、天気の良い平日、天気の良い平日別の施設への新規来訪者数を算出。

- ⑨ ⑥a に⑧を足し合わせ、月ごとの天気の良い休日、天気の良い平日、天気の良い平日別の新規来訪者数を算出。
- ⑩ ⑧の天気の良い休日および平日の新規来訪者数から、気象庁のデータを用いて、降雨により噴水を中止する日数分を減じる。
- ⑪ ⑩の新規来訪者数から、気象庁のデータを用いて、強風により噴水を中止する日数分を減じる。また、メンテナンス想定期間分も、同様に新規来訪者数から減じる。
- ⑫ 東京都観光客数等実態調査（2023年）より、国内日帰り客数、国内宿泊客数、海外宿泊客数の割合を算出。
- ⑬ ⑪の新規来訪者数に⑫を乗じることにより、国内日帰り客、国内宿泊客、海外宿泊客別の新規来訪者数を算出。

※⑩⑪の降雨、強風、メンテナンスによる中止を踏まえ、噴水稼働日数を設定。

（新規来訪者数の推計結果）

(人)	
国内日帰り客	2,242,391
国内宿泊客	219,162
海外宿泊客	89,808
計	2,551,361
1日当たりの来訪者数	10,456

（2）新規来訪者の消費額単価の推計

新規来訪者の消費については、東京都観光客数等実態調査において臨海副都心周辺で実施したパラメータ調査データを用いて算出した。

算出にあたっては、消費額単価を平均滞在時間で除することにより、滞在時間1時間当たりの消費額単価を求め、噴水観覧により想定される滞在時間（2時間）を乗じて、消費額単価を求めている。

（新規来訪者消費額単価の推計結果）

(円)				
	交通費	宿泊費	土産代	飲食費
国内日帰り客	341	0	174	631
国内宿泊客	1,540	1,560	712	1,365
海外宿泊客	1,201	1,986	907	1,522

※利用データの調査年：2023年

（3）経済波及効果の推計

新規来訪者については、国内からの来訪者（日帰り客・宿泊客）及び海外からの来訪者（宿泊客）とし、消費額単価については、交通費は「運輸・郵便」部門、土産代は「商業」部門、宿泊費・飲食費・は「対個人サービス」部門に計上することにより、来訪者の消費による経済波及効果の推計を行った。

(新規来訪者の消費による経済波及効果の推計結果)

(百万円)	
都内新規需要	4,209
直接効果	3,798
第1次間接効果	1,502
第2次間接効果	523
生産誘発額(総合効果)	5,822
粗付加価値誘発効果(総合効果)	2,841
(人)	
就業誘発効果	457

4. 既来訪者消費による経済波及効果の推計

(1) 既来訪者数の推計

既来訪者消費による経済波及効果の推計にあたり、2023年のゆりかもめ、りんかい線、バス等の輸送、降車人員等をもとに、2026年4月～2027年3月までの噴水観覧可能なエリアへの来訪者数を推計した。推計は、以下の手順で行った。

- ① ゆりかもめ・りんかい線の降車人員、バスの輸送人員などの利用台数より、年間のお台場地区への既来訪者数を推計。
- ② 数字で見る臨海副都心のデータより1日の就業者数(②a)、居住人口(②b)を算出。
- ③ 祝日、休暇より年間の就業日数を算出。
- ④ パーソントリップ調査(東京都都市公園交通協議会)より外出率を算出。
- ⑤ パーソントリップ調査の全目的交通手段別トリップ数より居住者の外出時の鉄道利用率を推計。
- ⑥ ②aに③を乗じることにより、台場地区の年間の就業者数を算出(⑥a)。②bに④、⑤を乗じることにより、台場地区の年間の居住者数を算出(⑥b)。
- ⑦ ①から⑥a、⑥bを差し引くことにより、就業者、居住者を除く年間の台場地区の既来訪者数を算出。
- ⑧ 新規来訪者数の推計時に設定した噴水稼働日数より、年間の噴水稼働率を算出。
- ⑨ ⑦に⑧を乗じることにより、噴水稼働時の既来訪者数を算出。
- ⑩ 東京都観光客数等実態調査(2023年)より、国内日帰り客数、国内宿泊客数、海外宿泊客数の割合を算出。
- ⑪ ⑨の新規来訪者数に⑩を乗じることにより、国内日帰り客、国内宿泊客、海外宿泊客別の新規来訪者数を算出。

(既来訪者数の推計結果)

お台場地区の来訪者数	1,750万人
------------	---------

※従業者、就業者・居住者及び風雨による噴水休止日を除外 852万人
(人)

国内日帰り客	7,491,076
国内宿泊客	732,146
海外宿泊客	300,018
計	8,523,241
1日あたりの来訪者数	34,931

(2) 既来訪者の消費額単価の推計

既来訪者の消費についても、新規来訪者と同様のパラメータ調査データを用いて、滞在時間1時間当たりの消費額単価を求め、噴水観覧により延長すると想定される滞在時間（1時間）を乗じて、消費額単価を求めている。なお、滞在時間の延長により飲食費の消費が増加するものとし、国内日帰り客、国内宿泊客、海外宿泊客のいずれも、消費単価の最も低い国内日帰り客の値を採用している。

(既来訪者消費額単価の推計結果)

(円)

	飲食費
国内日帰り客	315
国内宿泊客	315
海外宿泊客	315

※利用データの調査年：2023年

(3) 既来訪者の消費による経済波及効果の推計

既来訪者については、国内からの来訪者（日帰り客・宿泊客）及び海外からの来訪者（宿泊客）とし、消費額単価については、飲食費を「対個人サービス」部門に計上することにより、既来訪者の消費による経済波及効果の推計を行った。

(既来訪者の消費による経済波及効果の推計結果)

(百万円)

都内新規需要	2,685
直接効果	2,685
第1次間接効果	989
第2次間接効果	358
生産誘発額（総合効果）	4,032
粗付加価値誘発効果（総合効果）	1,966

(人)

就業誘発効果	393
--------	-----

(参考) RESASによる噴水観覧者数の推計

地域経済分析システム（RESAS：リーサス）のまちづくりマップ「流動人口メッシュ」により、お台場海浜公園で2023年12月に実施された花火イベント時の人流データを活用し、噴水を楽しむことができる台場地区及び対岸を含む周辺エリアの年間の噴水観覧者数を推計。おおよそ3,000万人/と推計される。

4. 費用対効果

お台場海浜公園噴水事業の費用対効果をまとめると以下のとおりとなる。

(費用対効果)

項目		計
費用(百万円)	整備費	2,640

項目		計	整備費による 経済波及効果	新規来訪者消費に よる経済波及効果	既来訪者消費によ る経済波及効果
効果(百万円)	総合効果	13,702	3,848	5,822	4,032
	間接効果	4,683	1,311	2,025	1,347
費用便益比	総合効果/開催経費	5.19	1.46	2.21	1.53
	間接効果/開催経費	1.77	0.50	0.77	0.51

※総合効果＝直接効果＋第1次間接効果＋第2次間接効果

※間接効果＝第1次間接効果＋第2次間接効果